

みやぎの学ぶ土台づくり

小学校・中学校・高等学校等を通じた「みやぎの志教育」につながる「就学前の幼児期の教育・保育の理念」

みやぎの志教育

夢をはぐくみ志に高める

人と『かかわる』 よりよい生き方を『もとめる』 社会での役割を『はたす』

接続

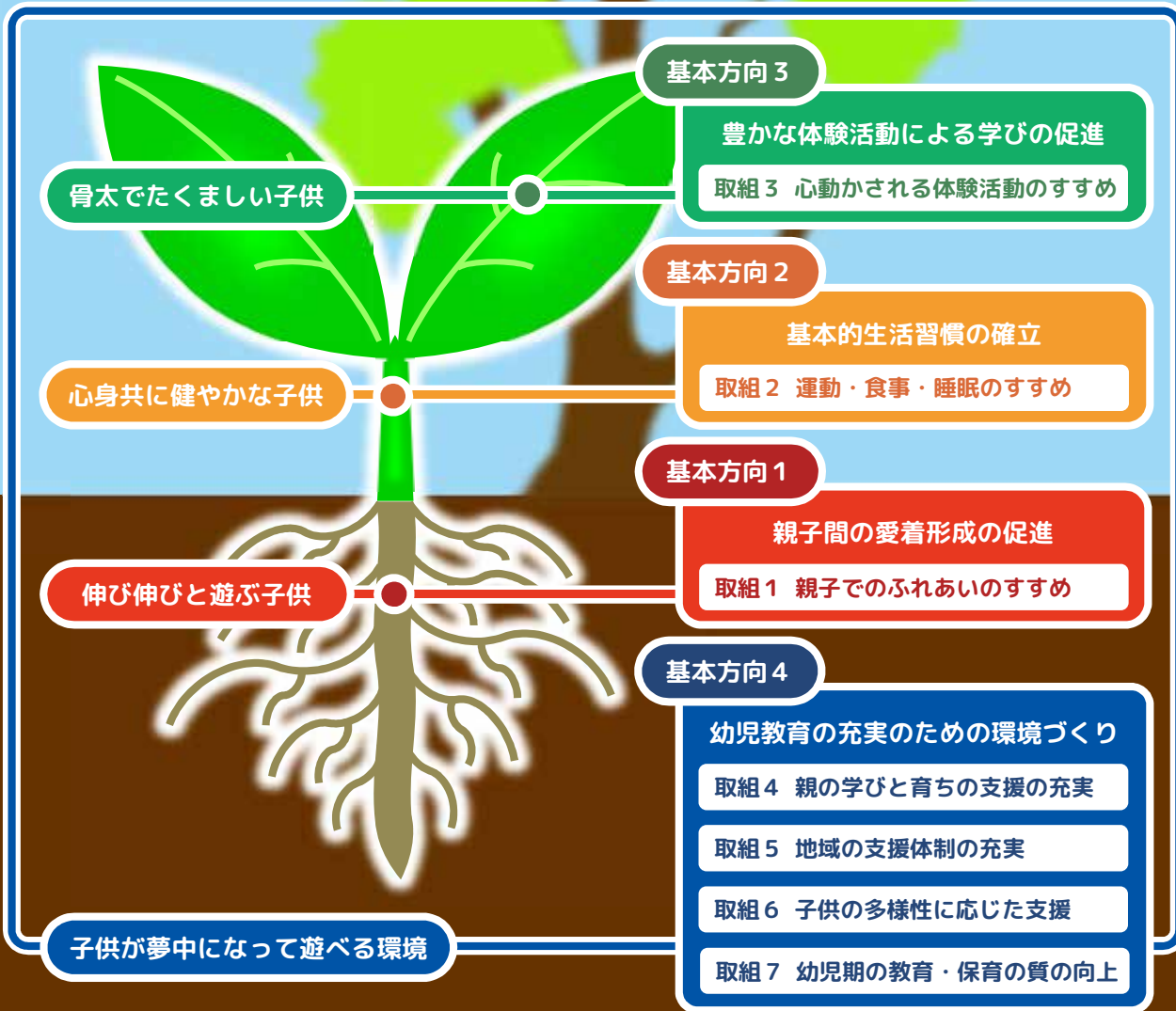
遊びを通じた学び

みやぎの学ぶ土台づくり

目指す
子供の姿

元気いっぱい、夢いっぱい、瞳かがやく“みやぎっ子”

～ 遊びや自然・人とのかかわりを通して、豊かな心をはぐくむ ～



元気いっぱい、夢いっぱい、瞳かがやく「みやぎっ子」

宮城県幼児教育推進指針

みやぎの学ぶ土台づくり



宮城県では、幼児期を生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期、すなわち「学ぶ土台づくり」の時期として捉え、家庭や幼稚園・保育所・認定こども園などのいずれにおいても充実した幼児教育が行われ、小学校へ入学する時期までに、子供たちが豊かな心情や学ぼうとする意欲、健全な生活を送る態度などを身に付けることを目指して取り組んでいます。

親子でのふれあいのすすめ

絵本を一緒に楽しみましょう

大人の落ち着いた優しい声と共に絵本に触れることで、子供の気持ちは安定していきます。大人と子供の対一の関わりである読み聞かせは、絵本の世界と一緒に分かち合ったり、子供が大人の愛情を受け止めたりする経験になります。また、絵本は子供に新たな言葉との出会いをつくり、言葉の感覚や語彙を豊かにするとともに、子供のイメージの世界を広げます。

子供を膝に乗せたり、添い寝などをしたりしながら、絵本の読み聞かせをしてみましょう。



おしゃべり



ふれあい



絵本



スキンシップ



運動・食事・睡眠のすすめ

十分に体を動かすことができるようにしましょう

幼児期は身体の様々な機能が大きく発達する時期であり、子供は自発的にそのとき発達していく機能を使って活動する傾向があるとされています。そして、その機能を十分に使うことによって更に発達が促されていきます。そのため、自分から体を動かす心地よさを味わうことができるようにすることが大切です。

「走る・跳ぶ・投げる」といった運動にとどまらず、いろいろな遊びの中で十分に体を動かすことができるようにしましょう。



生活のリズム



運動



食事



睡眠



心動かされる体験活動のすすめ

やり遂げようとする気持ちを大切にしましょう

子供が遊びを心ゆくまで楽しみ、その中で物事をやり遂げようとする気持ちをもつことは、子供の自立心をはぐくむ上で大切です。途中でうまくいかなかったり、思い通りにいかなかったりしたときも、周囲の大人に温かく見守られ、必要に応じて適切な援助を受けることができれば、諦めずにやり遂げることができるようになります。

子供のやり遂げたいという気持ちを大切に、やり遂げることができたときには、一緒に喜びましょう。



おでかけ



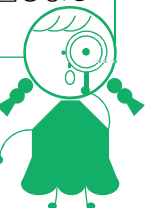
文化に触れる



人と関わる



やり遂げたい



子供の健やかな成長のために

子供が夢中になって遊べる環境にしましょう

幼児教育は、教育現場はもちろんのこと、家庭や地域社会においても幅広く行われるものであるため、幼児教育の充実に向けて、関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）がそれぞれの役割

親の学びと育ちの支援の充実

地域の支援体制の充実

子供の多様性に応じた支援

幼児期の教育・保育の質の向上

を的確に果たし、連携して取り組むことが必要です。



家庭



地域社会



教育現場



行政



この指針は、家庭・地域社会・教育現場・行政における実践的なガイドブックとして活用してもらえようものとしています。

宮城県の将来を担う全ての子供たちをみんなではぐくむため、この指針を活用して、それぞれの立場に応じて、できることから少しずつよいので実践してみてください。

この指針により「元気いっぱい、夢いっぱい、瞳かがやく「みやぎっ子」」を目指し、みんなで幼児教育に関わる意識をもち、各主体間で連携・協力しながら取り組んでいきましょう。